

# 家畜衛生だより

令和4年12月22日発行  
最上家畜保健衛生所  
最上地域家畜畜産物衛生指導協会  
Tel : 29-1357 FAX : 23-2944

## シリーズ 子牛の下痢症 第4回 (最終回) ～母牛の管理～

「母牛の管理」を疎かにすると、子牛の初乳製剤・ワクチンを投与しても大きな効果が期待できないことがあります。  
今回は「母牛の管理」について詳しくみていきましょう。

### 分娩環境

### ストレスのないお産を

#### ★分娩舎への事前の移動

母牛を分娩舎の環境に慣れさせるために、分娩予定の1か月前には分娩舎へ母牛を移動させましょう。

また「別飼い」も、母牛のストレス軽減に繋がります。

#### ★分娩舎は清潔に

消毒や清掃を定期的に行い牛房内を清潔にすることで、新生子牛の感染予防にも繋がります。

#### ★寒暖差に注意する



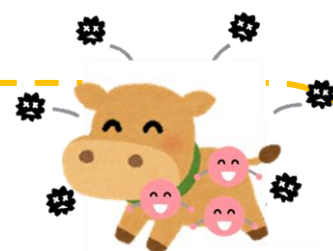
### 栄養管理

### 子牛の免疫器官の発達

#### ★分娩末期（分娩3か月前）の栄養管理

妊娠末期に母牛の栄養が不足すると、子牛の胸腺が十分に発達せず、出生後の子牛は下痢や肺炎を発症する確率が高まります。

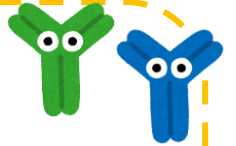
（※胸腺とは・・・免疫をつかさどる器官で、子牛の時に発達している。）



妊娠末期には通常より3割程度、  
配合飼料を増量して与える（増し飼い）

## ワクチン

## 初乳を介して子牛の免疫を強化



### ★分娩前の母牛へのワクチン接種

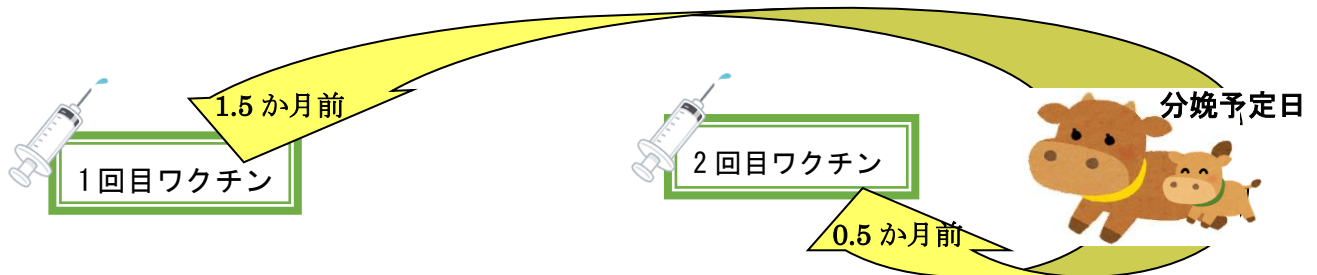
分娩前の母牛にワクチンを接種し、母牛体内で産生された抗体を初乳を介して子牛へ受け渡すことができます。

主に使用されているワクチンには、牛下痢5種不活化ワクチンがあります。

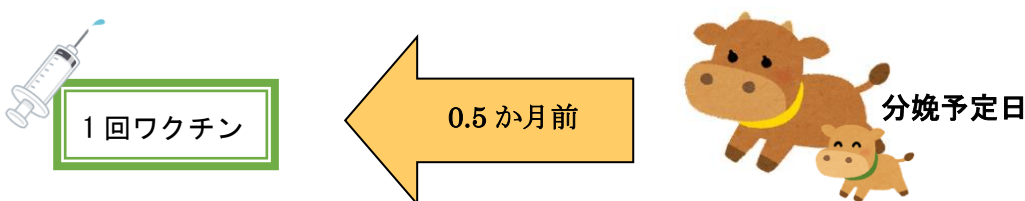
牛下痢5種不活化ワクチンの対象疾病は、牛ロタウイルス、牛コロナウイルス、牛大腸菌症です。接種法は下図のようになります。

### 牛下痢5種不活化ワクチン接種時期

初回接種の場合は、分娩予定日の1.5か月前と0.5か月前に接種する



前年度に接種している場合は、分娩予定日の0.5か月前に1回接種する



これまで4回に渡り子牛の下痢症について詳しく解説しました。子牛の下痢症の予防方法は1つだけでなく、様々な方面からのアプローチが必要となり手間がかかります。しかし、必要な予防を怠ると子牛の発育に大きな影響を及ぼします。

今回のシリーズを参考にいただき、少しでも子牛の下痢症対策に繋がっていただければ幸いです。

ご不明な点等は、最上家畜保健衛生所までご連絡ください。

電話番号 0233-29-1357 (休日・時間外も連絡可能)